



澳國官財會計詞訟彙  
即檢査法

1613



2776

澳國官財會計詞訟法 即檢查簿

大正十一年四月贈

也納千八百五十四年

會計學試驗事務官大博士  
著

緒言

澳國ニ於テハ政府歳入歳出會計、検査ハ別ニ一局  
ヲ設立シテ之ヲ管理セリ而シテ該局ハ多ク歳入歳  
出簿記ノ事務ヲ共ニスルヲ以テ是ヲ簿記局ト云フ  
此簿記局全國ニ通シ單一確定セル會計、驛遞、鐵  
道、電信ノ如キ是ナリヲ管理スルモノヲ大政府簿記  
局ト云ヒ一州ニ關シテ該局ニ屬セザル別種ノ會計



管理スルモノノ簿記云々ト云フ總テ右ノ簿記局  
ハ會計檢査總督官即チ検査官上等ニ属スルモノナリ  
出納局政府歳入歳出ノ事務ヲ執行スル局ヲ云フハ  
定期ニ循テ歳入歳出ノ會計ヲ簿記局ニ送致スヘシ  
簿記局ニ於テ簿記ノ事務ヲ執行スルキハ出納局ヨ  
リ日用帳トレシステルノ正類トシ簿記局ニ送致シ若シ  
出納局ニ於テ該事務ヲ執行セシ時ハ譯者云フ總テ  
簿記ノ事務ハ簿記局ニテ執行スト雖モ事項ニヨリ  
出納局ニ於テスルモアリ是レ甚タ稀有ナリ簿記法  
ニ循テ編製セシ會計表ヲ日用帳ト共ニ或ハ別ニ之  
簿記局ニ送致ス而シテ又日用帳及ヒ會計表ニハ  
收入支出ノ憑據トナルヘキ緊用ノ證書類ヲ添附ス  
ルモノナリ

第一章

官財會計詞訟彙主旨検査法

簿記局ニ於テ檢査セシ歳入歳出會計ノ結果ハ必ス  
會計官ニ通知スヘシ而シテ會計檢査ノ時ニ方若シ會  
計上誤謬アルカ或ハ誤謬ニアラサモ不都合ノ事件  
アルハ簿記局ト會計官トノ間反復照會照會往復  
ハ四四ヨリ多カテサレテ法トスヘシ即チ簿記局  
ヨリ詰責書再詰責書ヲ會計官ニ送致シテ其事項ヲ  
訊問シ會計官モ亦其辨解書再辨解書ヲ簿記局ニ送  
致シテ之ヲ答辨ス而シテ簿記局ニ於テハ最後ノ答  
辨書ヲ以テ該事件ハ會計官ノ負債カ或ハ負債ナラ  
サレカ裁決スヘシ之ヲ斷案書ト云フ  
右ノ照會ヲ裁判外ノ官財會計詞訟ト云フ而シテ會

計官ハ簿記局ノ斷案書ニシテ皇帝へ請宥シ又法律  
上告訴スヘキコトアリ是ヲ裁判上ノ官財會計詞訟ト  
云フ  
然テ會計ノ詞訟結了レ或ハ會計検査上詞訟ヲ起ス  
ヘキノ事項顯出セスレテ一ケ年會計全ク經結セシ  
後ハ簿記局ヨリ會計官へ該事務ノ解絆證書ヲ直ニ  
附與シ或ハ斷案書ニ附シテ是ヲ與ノヘシ是ヲ解絆  
證書ト云フ

第二章

官財會計詞訟目的ノ事  
會計検査ノ時若シ誤謬或ハ未完或ハ不都合等ノ事  
項顯出スルキハ之ニ付テ其詞訟ヲ起シ或ハ照會ヲ  
以テ恰當ノ所置ヲ為スノ二様アリ簿記條例ニ據リ

テ之ヲ見レハ總テ會計表日用帳ニ付テ顯出セル事  
項ハ詞訟法ニ因テ處分ス可キ原則アリ又千八百三  
十五年下澳地利州縣ノ簿記條例中ニモ亦此原則ヲ  
明記セリ  
又上等検査官ノ諭命ニハ總テ證書付屬ノ會計ハ常  
ニ之ヲ擔當セル主任ト一時擔當セル主任ト別ナ  
ク悉ク官財會計詞訟法ヲ以テ經結セシムヘシ無証  
書ノ會計或ハ會計拔書其外會計詞訟法ヲ用ユヘカ  
ラサル會計ハ公局ノ往復ヲ以テ完結セシムルモ妨  
ケナシト然リト雖モ此原則ハ唯其字句上ノニ據  
リテ執行スルコトヲ得ヘカラス如何トナレハ證書付  
屬ノ會計多數ナル故官財會計詞訟法ヲ以テ悉ク之  
ヲ執行スルキハ空シク時價ヲ消費レ公局事務多端

ナレヲ以テナリ營へハ日も品買上拜借金及ヒ小營  
繕或ハ驛遞小廝臨時拜借金會計ノ如キ是ナリ然レ  
ハ金庫或ハ出納局ヲ固有セル各行政支局ハ必ス成  
規ニ隨ヒ官財會計詞訟法ヲ以テ執行スヘシ然リ而  
シテ右ニ揭示タル日用買上品ノ如キ其他會計ノ小  
分ケハ平生公局ノ照會往復ヲ以テ完結セシメ若シ  
大ナル誤謬等アル時ハ成規ノ如ク官財會計詞訟法  
ヲ以テ之ヲ執行スヘシ  
官財會計詞訟法ハ會計檢査ノ際簿記局ト會計主任  
トノ間ニ於テ起ルモノナリ而シテ簿記局ニ於テハ  
行政ニ干預セサルカ為メ理財ノ事務即チ行政事務  
ハ官財會計詞訟法ニ関涉無キヲ以テ理財上ノ事務  
項ニ付テ誤謬アリ辰會計主任ヲ答メ又ハ命令スル

等ノトナク直ニ行政局ニ報告スヘシ但シ會計主任  
行政事務ノ兼務シ該事務ニ付テハ其ノ事項ハ會計  
事項ト一般ニ照會往復スルトヲ得ヘシ

第三章

ソキイダツル金銀拂ヒ未行前ニ照査  
スルト云フ及ヒ官財會計詞訟法ヲ以  
テ金庫ノ擔任ヲ區別スル事此章茲  
畧ス

第四章

詰責及其期限ノ事

裁判外ノ官財會計詞訟法ヲ以テ簿記局ヨリ會計主  
任ニ對シ照會スル書簡ヲ詰責書ト云ヒ一ニ之ヲ  
シゲルト云フ陸軍ノ會計ニ於テハ之ヲ訊問書ト云  
フ又理財局ニ對シ照査第三章ノ首項上ノ誤謬ヲ照

會スル書簡ヲ知覺書ト云フ

會計検査ノ片檢出スヘキ事項ハ誤謬或ハ不明瞭ナ  
レ疑點ニ在リ誤謬トハ検査吏員會計主任ノ辨解ヲ聽  
カサル前ニ誤謬ト認識シ而シテ其事項ハ會計ノ實  
體ニ屬スルカ或ハ會計ノ體裁ニ關係セルカニアリ  
又會計ノ實體ヲ分テニトス其一ハ數ヲ以テ量知ス  
ルモノニシテ例之ハ理財上追徴スヘキ損失即チ不  
足ヲ釀生シ或ハ理財上返付スヘキ一時不正ノ所得  
即チ過上ヲ生スルヲアリ其二ハ會計費日緊要ノ憑  
據缺如ナルヨリ起ルモノナリ因テ詰責ノ原由トナ  
ルキ種類ヲ區別シテ揭示スル左ノ如シ  
イ 總テ誤謬ヨリ生スル損失ハ會計主任之ヲ  
追徴セサル可カラサル事

口

總テ誤謬ニヨリ生スル所得ハ會計主任或  
ハ他人ニ對シテ返付セサル可カラサル  
事

ハ

會計ニ缺漏ノ証書ヲ出サシムル事

ニ

會計上ノ體裁ニ就テ之ヲ論示スル事

ホ

會計上ノ不明了ナル疑點ヲ訊問スル事

此區別ハ簿記局條例中ニ分明ナリト雖凡就中其明  
瞭ナルヲ千八百三十四年ニ制定セシ問稅簿記條  
例中第四十二ヨリ第四十四迄ノ條項ニ就テ見ルヘシ  
但シホ印ノ條項ハ該條例ニ脱漏セリ  
重大ナル誤謬ハ官財會計詞訟法ノ外別ニ該行政官  
ニ報告スヘシ是ハ會計主任誤謬ノ為メ償フヘキ金  
額兼テ納メシ身元金ノ半額ヲ過ルキカ或ハ不正及ヒ

詐欺ノ所為アルカ又ハ勤勤上急情ノコアルキヲ云  
フ而シテ簿記局ニ於テハ會計中十クライツエル我  
六錢六以下ノ誤謬ハ總テ計算中ノ誤リトシ合セテ  
一トブルルデシ十九錢四ニ過キサルキハ之ヲ宥恕シ得ヘ  
キノ推アリ陸軍簿記局ニ於テハ此推四クライツエ  
ル九我二錢六迄ヲ限レリ  
此詰責書中ニハ辨解猶豫ノ期限ヲ定ムルヲ以テ緊  
要トス此期限ハ誤謬ノ輕重大小ニ隨テ之ヲ定ムヘ  
レ而シテ期限ノ時日ヲ記ス數字ハ必ス綴字并ニ符  
號トシテ少クモ六週間長クモ三ヶ月間ト定メ  
格別ノ事故アルニ非レ此規則ヲ乱スヘカラス尤  
モ税關或ハ運上金庫ハ此期限ヲ週間トシ而シテ  
其支局ハ之ニ二週間ヲ加ヘ併テ八週間トス又鐵道

電信兩局ハ十四日間トス陸軍簿記局ニ於テハ訊問  
書ノ淨寫三枚以下ハ四週間三枚上ハ六週間六枚  
以上ハ八週間ト定メ之ニ郵便往復ノ定日數ヲ倍  
シ加美セリ  
簿記局ニ於テハ會計檢査及ヒ詰責書作為ノ時間左  
ノ如ク定メアリ  
イ 一ヶ月ノ日用帳會計檢査及ヒ詰責書作為  
ノ時間ハ該帳簿ヲ受領セシ日ヨリ多クモ  
四ヶ月ヲ過クヘカラス  
ロ 一ヶ年ノ會計帳此會計或ハ四季或ハ半ケ  
年ニ分ツモアリハ同シク十二ヶ月ヲ過ク  
ヘカラス  
官財會計詞訟法ハ渾テ一ヶ年ノ會計ニ就テ執行ス

ヘキモノト雖氏會計ノ時ト即チ日用帳ノ如キハ毎月ニ之ヲ行フニ從ヒ其期限毎ニ之ヲ行フアリ

第五章

詰責書々式ノ事

詰責書ノ書式ハ左ノ如シ

イ 詰責書ノ表題知覺書ニ同シニハ會計ノ種類ト會計ノ時限トヲ掲載シ而シテ會計主任ノ姓名及ヒ職名ヲ記スヘシ

渾テ誤謬ハ其會計ニ關スル帳簿ノ記号枚數及ヒ日用帳ノ科目ヲ詰責書ニ詳記シ其

口 文體ハ言詞溫和ヲ旨トシテ誤謬一事項毎ニ其條目ヲ別ツヘシ此ノ詰責書ノ条目ト云フ而シテ同種類中誤謬ノ事件多クモ一

條目中ニ併記スルヲ許サズ是ヲ一條目ニ併記セハ詰責ノ言詞簡易ナリト雖氏其答辨書ハ該詰責書ニ對シ誤謬ノ答辨同シ

ヲラ、殊ニ最初ノ答辨書ニテ其一條目中ノ幾件ハ既ニ纏結シ他ノ幾件ハ法律上ニ

於テ辨償スヘキモノトナリ尚ホ他ノ幾件ハ再詰責ニ付シ其答辨書ニテ又幾件カ纏

結シテ殘件纏結セサル如キ場合ニ於テハ彼此紊亂シ初メ詰責書ヲ簡易ニナセン便

ハ却テ不分明ノ害ヲ生シ最モ官財會計詞訟法ヲ行フニ甚タ煩擾ナルニ至レリ

総テ詰責書ニハ詐欺誘導臆測推考ノ詞ヲ用ヒテ尋問スルハヲ得ヘカラス例之彼レ

ハ

裁

目



答辯書ニ因テ決定スヘキ事ヲ我カ詰責  
書ヲ以テ此ノ如クナラント推定スルノ類  
ナリ

詰責書條目ノ記号會計一年度中ハ検査セ  
レ會計帳及ヒ日用帳ノ誤謬ヲ初頭ヨリ順  
テ逐テ之ヲ附シ故ニ毎月或ハ四季ノ會計  
ナルモ此記号ヲ改ムルナシ

詰責書條目ノ順序歳入ニ属スル事ハ歳出  
ニ属セン事ヨリ之ヲ先ニスヘキノ通規ア  
リト鉅大開税ノ會計ニ於テハ追徴返付ニ  
関スル誤謬ヲ先ニシテ諭示其他ノ事ニ関  
スル誤謬ヲ後ニスヘシ

詰責書ニ掲記セシ答辯ノ期限ヲ過キ其答

辯書ヲ出サシムル時ノ處分舊規ニ循ヘハ簿  
記局ヨリ書牘ヲ以テ屢之ヲ督促スルノ  
ニシテ會計訴訟法ヲ遷延シ或ハ空ク數回  
督促ヲ為スニ因リ之ヲ改正セン為メ新  
一法ヲ定メ若シ會計主任ニ於テ答辯書  
限中ニ其辯解書ヲ出サス又延期ヲ乞ハス  
シテ空ク期限ヲ經過スルキハ直ニ欠席裁  
判ノ法ヲ以テ斷案書ヲ付スヘキモノトセ  
リ即チ會計誤謬ノ事ニ就テハ該主任ヨリ  
裁判外ノ辯解ヲ待スレテ斷案ニ付ス故ニ  
答辯期限ハ詰責書ノ結尾ニ左ノ如ク記載  
シ詰責ノ條目ハ其詰責書ヲ領受セシ日ヨ  
リ何週間ニ辯解スヘシト或ハ止ヲ得サル

場合ニ於テハ延期ヲ乞ハサルヘカラス若  
シ主任ニ於テ是等ノ事情ル時ハ直ニ斷  
案ノ所置ヲナスモノナリ  
間税金庫ニ關涉スル詰責書或ハ理財局ニ  
送付スル知覺書ニハ前ニ揭示セシ言詞ヲ  
談書ノ結尾ニ記載セス之ヲ前文ニ揭示シ  
テ標題ノ次ニ記スヘシ

茲ニ詰責書知覺書ノ書式ヲ示ス左ノ如シ  
詰責書々式

千八百何年何月中ノ會計ニ係ル誤謬ハ會  
計主任之ヲ返附スヘキカ或ハ追徵スヘキ  
カ直ニ之ヲ纏結セシムヘシ又答辯ヲ起サ  
ハ其詰責書ヲ受理セシ日ヨリ何週間ニ辨

知覺書々式

解スヘキモノナリ  
何々ノ金庫ニ關セル千八百何年何月中ノ  
會計檢査表ニ拂出シ命令即チ傳票ノ事務  
ニ就テ其答辯ヲ起サハ云々以下詰責書ノ  
文ニ同シ

ト 詰責書中ニハセルフワトブクク第四十

四章ニ詳カナリヲ書スヘカラス  
詰責書ニハ其草案ヲ起セル者ノ名ヲ署シ

往復課之ヲ淨書シテ簿記局ニ廻致シ簿記  
官檢査ノ上之ニ認識ノ証ヲ書ス但シ間税  
ニ關スル詰責書ノ淨書ハ往復課長官ノ署  
名ニシテ簿記官ノ認識証ヲ要セス

第六章

辨解報告ノ事

答辨書ニハ詰責書條目ノ記号ニ隨ヒ其誤謬ヲ解明  
 伸理シ或ハ缺漏ノ証書ヲ出スト又誤謬ヲ改正スル  
 期約或ハ之ヲ改正セシ憑據ヲ顯示シ而シテ其追徴  
 或ハ返付スヘキ金額收入支出完了セシ等ノトハ平  
 穩ナル言詞ヲ以テスヘシ特ニ間税會計主任ニ於テ  
 ハ詰責ノ條目ヲ自カラ誤謬ト承認セシトハ其辨解  
 書ニ之ヲ改正セシ憑証ヲ顯示スヘシ  
 會計主任ヨリ答辨書ハ必ス詰責書ノ條目ヲ指レ  
 テ之ヲ作為シ再ヒ詰責條目ノ事項ヲ舉ケ之ヲ辨解  
 スルニ及ハス而シテ此答辨書ハ全紙ノ一面ニ記レ  
 テ半面半面トハ全紙ヲ半折シテ左邊ニ事項ヲ書シ

右邊ニ餘白ヲ存スルヲ云フニ記スヘカラス唯全紙  
 左端ニ僅少ノ餘白ヲ存シテ附屬書ノ記號ヲ記ス  
 ノ也位トスヘシ會計主任ニ於テハ簿記局ヨリ付セ  
 レ詰責書ハ之ヲ其官署ニ藏置シテ答辨書ト共ニ簿  
 記局ニ返付スルニ及ハス  
 答辨書ハ固ヨリ詰責書ニ干係スル會計主任或ハ其  
 後任者ヨリ之ヲ出スヘキ者ト雖氏間税各種ノ會計  
 ニ於テハ特別ノ法アリ即チ間税理財局ニテ其照査  
 セシ事項ニ就テノ知覺書ト共ニ該局附屬ノ出納局  
 或ハ金庫ノ會計ニ對スル詰責書ヲ受ル時該理財局  
 ニ於テ其詰責ノ事項照査帳ニ據リ十分ノ辨解ヲ為  
 シ得ル以内ハ該出納局及ハ金庫ニ尋問スルトヲ要  
 セス直ニ其答辨書ヲ檢査官(即チ簿記局)ニ送致スヘ

答辨書作為、期限ハ必ス詰責書中ニ揭示シテ、  
若シ會計主任ニ於テ該期限内ニ辨解ヲ為シ得カ  
タクト見認ル事アル時ハ其事實ヲ簿記局ヘ陳述シ  
テ相當ノ延期ヲ乞フテ得ヘシ

